

「キンモクセイの香りとコム デ ギャルソンの香水」

平野佐和 会員

昨秋は特にキンモクセイの開花を待ち遠しく感じていました。夏に某調香師による書物でこの花の香りを表現する文を読んだからでしょう。一部を引用します。「フルーティーで優しく心地よいトーン…、紛れもなく、この花の美しい矛盾は、クリエイターがこれを決して花とは考えないことであり、キンモクセイは調香師のアプリコットのです。」¹⁾ 翌年の春、私はこの植物の香りが再構築された香水と出会うことになります。

キンモクセイの香り

遠くまで拡散する芳香を持つこの植物を、中国では「九里香」(九里は約 3600~4500m)²⁾とも言うそうです。その姿が周囲に見えなくても、窓を開けた途端に感じた香りから開花を知った記憶とも重なる呼称です。キンモクセイは、大気汚染によって花が咲かなくなることもあるらしく、爽やかな香りの背景にはきれいな空気が必要と思われ知らされます。³⁾ 小さな橙色の花々が一斉に香り立つ姿は、まさに季節の節目の象徴です。

「国際香りと文化の会」初代会長の諸江辰男氏は著書で、キンモクセイの香りを「きわめて澄みきった環境のなかで磨かれた気高い理知的な匂い」⁴⁾と表現されています。この植物を比類なき香りを持つ存在と感じていた自身にとって共感できる表現でした。芳香ゆえに虫の誘引効果も大きいのかと思いきや、日本ではごく限られた虫を除き、多くの虫はこの香りを好まず避ける²⁾そうので、改めて独特の個性を感じさせます。



コム デ ギャルソン・パルファム 30 周年

川久保玲氏によるファッションブランド、コム デ ギャルソンの香水 30 年史としてのビジュアルブック、『Comme des Garçons Parfums 1994-2025 A book by Dino Simonett』が発刊されたのは昨年末。表紙の 1994 年「オードゥ パルファム」から 2024 年最新作までの全シリーズ、スペシャルエディション、コラボレーションのコレクションが、ボトルやパッケージ、印刷物と共に初めてまとめられ、紹介されたものです。

最初の香水の発売直後、川久保氏がフランスの雑誌に伝えた発言に彼女の考え方が明示されていました。その一部を引用します。「コム デ ギャルソンの香水は、服や家具同様に他の製品ラインの一つです。私にとって重要なのは、服であれ、香水であれ『着る』という概念です。… 服は自分を表現する手段です。人と違う自分を違う方法で表現したいなら、コム デ ギャルソンの服はきっと理解できるはずです。」⁶⁾



5)

香水情報サイト Fragrantica によると、今年の現時点でコム デ ギャルソンが発表した香水総数は 104。⁷⁾ それらのボトルやパッケージ、広告表現をながめると香水への先入観が払拭されるようです。ニューヨーク州立ファッション工科大学ミュージアムの館長兼チーフキュレーター、ヴァレリー・スティール氏も著作の中で「川久保は、ファッションという概念のすべてをも問いただす。」⁸⁾と指摘しています。

COMME des GARÇONS DOT Eau de Parfum

80年代から現在にかけて、コム デ ギャルソンを含む多くの広告やアートディレクションを手がけているアートディレクター井上嗣也氏の個展を鑑賞したのは今年4月のこと。そのコンセプト的な表現に触発され、あのビジュアルブックを再び眺めたくになります。非対称の曲面を持つ生き物のような形のボトルに注目しました。白のドット(水玉模様)が黒地に不規則に舞っています。2015年発売の香水です。



コードネームは「ドット」。この香水の物語は、コム デ ギャルソンのシンボルとも言えるドットのイメージから始まったと記されていました。香りのイメージとして川久保氏は、秋に日本中の公園や道端を彩るキンモクセイの花の香りをリクエストし、調香師のリュカ・シュザック氏は、花の香りを捉えるだけでなく、咲き誇る公園に漂う神秘的な魅力を再現することを目指してキンモクセイの香りの再構成を行ったそうです。⁵⁾



香りの説明を引用します。「キンモクセイの花から放たれるフルーティーなトーンで、キンモクセイの優雅な花々を捉え、葉を際立たせる鮮やかなグリーンノートや樹皮を映し出すホワイトアンバーウツの香りと対比させています。これに樹脂の感触のためのオリバナムとそのスパイシーな側面を強化するためのペッパーオイルが加えられました。」⁵⁾ 早速体感したくなり、私は、コム デ ギャルソン青山店に向かいました。

4月中旬、青山店で「ドット」の香りを試香紙に付けると、思わず笑みがこぼれました。柔らかなまるみを帯びたアプリコットのようなフルーティートーン、その奥には瑞々しいグリーンのにらめき、しっとりとした木のぬくもり。それらが一体となった存在感に橙色の花々から浮遊する香りの佇まいを感じました。4ヶ月後の今、密封保管しておいた同じ試香紙からは、キンモクセイの囁きが軽やかに漂っているようです。

参考文献

- 1) Jacques Cavallier-Belletrud, Lionel Paillès
『Louis Vuitton Atlas des parfums』 Thames & Hudson Fr 2024
- 2) 田中修、丹治邦和 『かぐわしき植物たちの秘密 香りとヒトの科学』 山と溪谷社 2021
- 3) 中村祥二 『「花の香り」 キク、キンモクセイ、ジンジャーリリー』 国際香りと文化の会 HP 版 VENUS・2016年秋号
- 4) 諸江辰男 『香りの風物誌』 東洋経済新報社 1986
- 5) Dino Simonett 『Comme des Garçons Parfums 1994-2025 A book by Dino Simonett』 Simonett & Baer 2024
- 6) 『VOTRE BEAUTÉ』1995年3月号 VOTRE BEAUTÉ S.A.
- 7) Fragrantica® Inc, 『Comme des Garçons perfumes and colognes』
<https://www.fragrantica.com/designers/Comme-des-Garcons.html> 2025.8
- 8) ヴァレリー・スティール (平芳裕子、蘆田裕史監訳) 『ファッションセオリー ヴァレリー・スティール著作選集』 アダチプレス 2025

執筆者

平野 佐和 (Sawa HIRANO)

プランナー、

文化服装学院講師

<http://www.sawa-hirano.com>